



外国人介護人材確保と育成定着へ向けた取り組み

社会福祉法人洗心会
特別養護老人ホーム洗心園

All Rights Reserved, TRAPE Inc.

1

事業所概要



他事業 デイサービス 20名
居宅介護支援事業所
特徴 多床室（2階・3階部分）

施設名	特別養護老人ホーム 洗心園 洗心園短期入所生活介護事業所
施設種別	介護老人福祉施設 短期入所生活介護事業所
定員	特養 84人 ショート 16人
開設日	1970年5月1日
所在地	〒739-0452 広島県廿日市市丸石二丁目7番47号
職員	介護職員 33名（うち特定技能外国人2名） 看護師 7名 理学療法士 1名 介助員 8名

All Rights Reserved, TRAPE Inc.

2

外国人介護人材受け入れの背景

- 受け入れは初めて
- 今後の人材不足への危機感
(先を見据えた対応)
- 求人を出しても応募が少ない
- 新卒者の採用が困難
(2025年は新卒者2名採用)
- 他施設より「受け入れて良かった」との声が多数あった
(評判が良いことと職場の活性化に期待)

3

特定技能外国人受け入れの経緯

令和4年 9月 広島県外国人介護人材協議会よりのお声掛けでフィリピン介護人材受け入れ促進プロジェクトの申し込み

令和4年 11月 特定技能外国人オンライン面談（1回目）

令和5年 3月 特定技能外国人オンライン面談（2回目）

令和5年 4月 POLO大阪（フィリピン海外労働事務所）との面談と申請書類提出

令和5年 11月 1日 採用（正職）2名（令和5年 10月 25日 来日）

- 連携機関
- ・ フィリピン人材紹介会社（送り出し機関）
 - ・ フィリピン人材採用コンサルタント
 - ・ 登録支援機関

4



入国時の流れ

【当日】

最寄り駅までお迎え（登録支援機関 1 名、特定技能外国人 2 名）



役所で住民登録



施設到着



自宅へ案内

ガス業者立会い

自転車、自転車置き場確認

鍵の確認

電気・水道は業者へ電話連絡

【翌日】

銀行での口座開設（登録支援機関 1 名、特定技能外国人 2 名）
施設職員自宅までお迎え、銀行へ送迎

【その後】

- 登録支援機関による入職 1 年目サポート面談：毎月 1 回本人とオンライン面談（日本語能力の向上を目的、メンタルサポート）
- 登録支援機関による定期面談：3 カ月に一度オンライン面談（本人と直属上司）
- 入管への四半期報告
- 介護分野特定技能協議会加入手続き（4 カ月以内）
- ビザ更新：在留期限 3 カ月前から準備

7

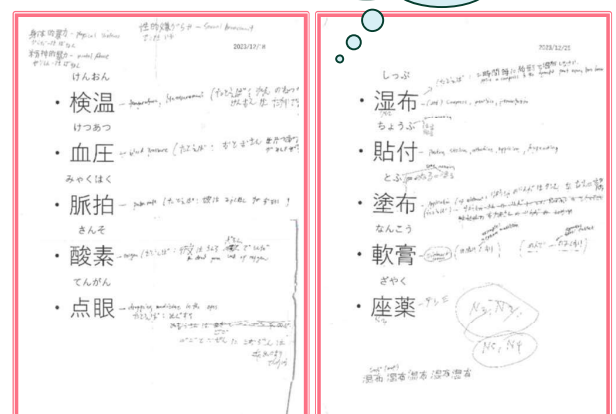
【就職直後の教育】

- ・介護の基本は 1 対 1 でしっかりと指導(確認を行い、1 人立ち)
- ・日本語の勉強
1 日30分、ひらがな・カタカナ・漢字を勉強
(時に広島弁も)

漢字の勉強

【業務に慣れてからの教育】

- ・介護に関する専門用語
- ・緊急時の対応、必要物品の名称
- ・内線電話の対応



8

【業務上で困ったこと】

- 細かな日本語が通じない
回覧等、難しい日本語が多い物の理解
→スマホのアプリを活用
- 業務日誌(手書き)に読みにくい字がある
→日本人職員に丁寧な字で記入するよう徹底する
- 夜勤明け申し送り時の言葉が不明瞭
→一緒に勤務した夜勤者がフォローする

漢字の練習中！



9

【日常生活で困ったこと】

- 体調不良時の病院受診
→初めは受診を拒むこともあった
職員が付き添って受診し、現在は近隣の病院へ受診で
きている
- 買い物
→自転車にて近場のスーパーへ行っていたが閉店となった
重たい物(お米など)は自転車では無理がある
定期的に声をかけ、一緒に買い物に行っている

【就職後の様子】

- いつも笑顔でフロア内が明るい雰囲気になった
- 利用者の名前を覚えるのが早かった
- 一生懸命に仕事を行ってくれる
- 日本人が気付かない所を整理整頓してくれている
- 初めの数か月は「恥ずかしい」という言葉をよく耳にしていたが、徐々に慣れて利用者への声掛けやレクリエーションなどができるようになった
- 夜勤は半年後より開始。問題なくこなしている

☆外国人介護福祉士資格取得支援者養成研修などの研修を受け入れ前に受講しておく、心構えや準備、対応の仕方など参考になる

11

【外国人職員に質問してみました】

○外国人職員からみた日本の介護現場

日本は高齢化が進んでおり介護人材の需要が高いため、外国人にとって意義のある仕事に就く機会となっている

☆安定した雇用、利用者への尊敬の文化

○魅力的な職場作り

職員が幸せでやる気に満ち、尊敬され、サポートされていると感じられる環境を作ることが大切

○外国人職員が感じる課題

- 言語の壁
- 文化の違い
- 身体的、精神的な負担



12

【今後の受け入れに向けて】

外国人職員の受け入れ前、漢字のふりがなをカタカナで記入していた。受け入れ後にひらがなの方が分かりやすいことが判明し、慌てて直すということからスタートした。

初めての受け入れで失敗したことを次の受け入れの機会に活かしていく。

また、受け入れ支援チームを作り、基盤をしっかりと確立して受け入れを行うと、外国人職員にとって安心して働きながら生活できる。

言葉や文化の違う地で働く外国人にとっては、私たち日本人が感じる以上に精神的な負担が大きいと思う。支援チーム、周りの職員が協力して外国人職員を支えていくことが大切。

13

【今後の予定】

現在、娘さんと日本で暮らしたいという夢があり、3年経過したら介護福祉士の資格取得を目指したいとのこと。

令和7年度の介護福祉士国家試験からパート合格(合格パート受験免除)制度が取り入れられ、受験しやすい仕組みとなる。

介護福祉士国家試験に出てくる介護用語を記憶し、定着させなければならない。そのために日々の業務でのやりとりで介護用語を説明し、覚えてもらうことから少しずつ始めている。今後は介護福祉士国家試験に向けての勉強のためのチーム作りを行っていききたい。

～職場の風景～



14

ご清聴ありがとうございました。

（使用いたしました写真につきましては、ご本人・家族より承諾を得ております。）

